

ORA 青年部会 第 12 回総会

パネルディスカッション『青年部会の活性化と次代の外食を創る若手経営者にのぞむこと』



日時：2025 年 6 月 24 日（火）

会場：中央区／ニューミュンヘン南大使館

2025 年 6 月 24 日に開催された ORA 青年部会第 12 回総会は、総会、パネルディスカッション、懇親会の 3 部構成で開催された。

総会後のパネルディスカッションでは、青年部会代表幹事（以下 代表幹事）を務めた経験のある上杉竜太郎氏（株式会社ニューミュンヘン 代表取締役専務／ORA 常任役員）、中川貴嗣氏（株式会社杏花村 代表取締役／ORA 監事）、東正成氏（株式会社エム・ジー・コーポレーション 代表取締役／ORA 副会長）の 3 名が登壇。東氏がファシリテータを務めるなか、上杉氏、中川氏がパネラーとして【青年部会】の活性化とこれからの外食産業を創る 20 代・30 代の若手経営者に望むことなどを述べた。

途中、参加していた歴代代表幹事の方々からの想い出話や若手経営者に寄せる期待の声なども加わり、参加者全員が非常に有意義な時間を過ごした。

最後に平野誠前代表幹事に、新代表幹事に就任した河合克俊氏から花束と記念品が贈呈され、参加者全員が拍手で平野前代表幹事の労をねぎらった。

■CONTENTS

パネルディスカッション

パネラー 上杉竜太郎氏（株式会社ニューミュンヘン 代表取締役専務／ORA 常任役員）
中川貴嗣氏（株式会社杏花村 代表取締役／ORA 監事）

ファシリテータ 東正成氏（株式会社エム・ジー・コーポレーション 代表取締役／ORA 副会長）

テーマ 1 【青年部会】の歴史について

テーマ 2 【青年部会】は何をしていくべきか

パネルディスカッション

パネラー 上杉竜太郎氏（株式会社ニューミュンヘン 代表取締役専務／ORA 常任役員）
中川貴嗣氏（株式会社杏花村 代表取締役／ORA 監事）

ファシリテータ 東正成氏（株式会社エム・ジー・コーポレーション 代表取締役／ORA 副会長）



左から 上杉竜太郎氏・中川貴嗣氏・東正成氏

テーマ1 【青年部会】の歴史について

東氏：今日から新体制となり、幹事会が一気に若返ることになりました。
今まで【青年部会】を守って来られた皆さまの想いや希望も伝えたいので、新幹事会の方々には【青年部会】を担っていただければと、このような場を設けさせていただきました。
まず、青年部会の歴史について、初代の代表幹事を務められた上杉さんからよろしくお願いいたします。

上杉氏：私が入会したのは、【青年部会】の前身である JR 会、いわゆるジュニア会の時代でした。
この JR 会は、1983 年 5 月に発足した ORA 会員社のみが入会できる非常に歴史のある会で、私が入会したのは 2005 年です。
当時は大先輩ばかりが在籍されていて、私よりも年若い方としては賛助会員社さんの息子さんたちがおられた程度でした。
雰囲気も今とはまったく違い、「大先輩にいろいろ教えてもらう」、そういった会でした。

その後、世代交代の時期に入ったのでしょうか。大先輩が次々に引退されてしまい、メンバーが急激に減っていきました。「今後、JR 会をどうしていこうか」が一時は話題にもなりましたが、幸いにも賛助会員社の株式会社中谷食品の中谷哲也氏が代表幹事を務めてくださることになり、何とか存続することができました。

しばらくすると、ORA 会員社の 2 世の方が ORA 本会の活動に参加されるように。
中谷代表幹事を中心に JR 会の若手メンバーが一致団結し、ひとりでも多くの 2 世の方々に JR 会に入っていただければと、会社にご挨拶に行ったり、勉強会などにお誘いしたりしましたね。

そして、2013 年、当時 JR 会の相談役だった水口和男氏（株式会社ボネールフードサービス）が ORA 本会の第 13 代会長に就任されたのを機に、水口氏はそれまで ORA 本会のなかでは非公式な会であった JR 会を、今後は会長直轄の組織【青年部会】に格上げすることを決断されました。それをきっかけに、年齢制限や入会基準などの様々なルールを決め、2014 年 5 月、正式に JR 会は【青年部会】として生まれ変わりました。

ちなみに、ほかの部門会には入会資格などありませんが、あえて【青年部会】に入会資格「ORA 会員の経営者又は経営者に準ずる人で幹事会の承認を得た人」を設けたのは、入会者を限定することで、お互いの悩みを打ち明けたり、様々な情報交換をしたり、さらには人脈を広めたり、そんな同じ立場の方々が集まるからこそできることを【青年部会】で体験していただきたい——。いわゆる“経営者のサロン”のように活用していただければと考えたからです。

そして、もうひとつ、【青年部会】になったと同時に大きく変わったのが、一般（ORA 未入会）の方も入会できるようになったことです。

これは、一般の若手経営者の方々が「ORA 本会にいきなり入会するのは敷居が高い」と思われたり、また、せっかく入会されても ORA の良さを知る前に退会される方が多かったりしたこと、立場や世代の近い【青年部会】で交流してもらい、会員資格のある 2 年間で徐々に ORA 本会にも参加していただければと考えたからです。

中川氏：ORA 本会への入会を躊躇されている若手経営者が参加しやすいように【青年部会】のハードルを下げ、まずは【青年部会】に入ってもらい——。それが【青年部会】に与えられた役割でした。

私自身も JR 会に入ったからこそ、ORA 本会に馴染むことができたので、この【青年部会】の在り方については大賛成でした。

実は、当社は ORA の創業時から入会していたらしいのですが、入会した父自身は協会活動には参加せず、部下を ORA の活動に参加させていたそうです。

そのうちに父から「ORA 担当と一緒に ORA に行き、顔を上げてこい！」と言われ、私は担当と一緒に ORA の総会に参加することにしました。すると……。なんと部下がまったく ORA の方々のなかに溶け込めていなかったんです。

しばらくするとその担当が退社したため、今度は父から「おまえが担当として参加するように」と言われました。

それを機に参加するようになったものの、総会の講演会までは問題ないのですが、懇親会の居心地が悪くて……。というのも、顔を知っているのは賛助会員社の方々だけで、正会員社の方々とはご挨拶程度しかお話ができなかったからです。

なかなか馴染めない ORA にどうしたものかと悩んでいたとき、ある正会員社の方から「JR 会という 2 世の方々の会があるから参加してみれば？」と声を掛けていただきました。

そのときの JR 会の代表幹事は中谷氏で、参加してみると同世代の方も多く、とても楽しい時間を過ごすことができました。それからは、毎回、JR 会には参加するようになりました。

その後、気づくと JR 会が【青年部会】へと格上げされることになり、代表幹事に就任された上杉氏から副代表幹事になってほしいとお願いされ……。副代表幹事、代表幹事と務めることにな

りました。

東氏：その後は ORA 正会員社の経営者またはそれに準ずる方々に代表幹事を務めていただき、現在に至っています。

テーマ2 【青年部会】は何をしていくべきか

東氏：では続いて、【青年部会】には、【青年部会】はもちろんのこと、今後の ORA 本会も担っていける人材が大勢おられます。これからの【青年部会】は何をしていくべきなのか。ご意見、お聞かせいただけますか？

中川氏：ORA 本会の入会資格は「外食産業（フードサービス業）に従事し、年商 5,000 万円以上」「常時雇用している従業員が 10 名以上」「店舗 2 店舗以上」の 3 つです。

若手経営者の方にとってネックになるのが 3 つ目の「店舗 2 店舗以上」ではないでしょうか。ただ、ORA 会員社 1 社の紹介があれば、入会資格のうち、「いずれか 1 つを満たす個人または法人の代表者で、入会選考委員会を経て理事会の承認を得たもの、もしくは上記条件外であっても、理事会の承認を得たもの」であれば、ORA に入会が可能です。

だからこそ、まずは【青年部会】の敷居を低くすることで、「とりあえず ORA 本会に入会しなくてもよいので来てみれば？」と誘えるようにしたいと思い、水口 13 代目会長の同意をいただき、最初の 2 年間は ORA 本会未入会でも活動できるようにしました。

ただ、私自身も 40 代後半になり、知り合いも同世代が多くなり、【青年部会】にお誘いすることは難しくなっていました。これからはやはり若手経営者の方々が同世代の方に声掛けし、集めていただければ……。

それに、ORA 本会を見ても中井貫二会長は 40 代で、協会活動に参加されている方々も若返ってきているように思います。そういう意味では、昔ほど敷居が高くないようにも思いますので、飲食業に携わっている若手経営者の他団体と積極的に交流することで、【青年部会】の魅力を伝えていただければ嬉しいですね。

上杉氏：【青年部会】をつくるときに、ORA 本体は入会金や年会費がそれなりの額が必要になることから、創業間もない若手経営者の方々にも入会していただきやすいよう、【青年部会】は入会金を安価にしました。

今後の活動については、楽しい会にするのもとても大切なことですが、店舗に自らが入られている若手経営者の方々に「時間を割いてでも参加したい」と思ってもらうためには、参加したことで何か得るものがある、そんな会にしていきたいと思っています。

参加すれば楽しい、しかも勉強になる——。そう思えるような会になるような企画、例えば、飲食店経営者ならではの経験談を聞かせていただけるようなセミナーなど、様々な企画を考えていきたいと思っています。

中川氏：【青年部会】から ORA 本会に入会してもらったとしても、【青年部会】の先輩がアテンドしなければ、なかなか ORA 本会に馴染めない方もおられるでしょう。

だからこそ、新しく入られた方が興味を持たれた部門会には、率先して【青年部会】のメンバーから「自分も参加するので一緒に行こう!」と声掛けをしてはどうでしょうか。その気遣いがないければ、「馴染めない」「敷居が高い」とせっかく入られた ORA 本会から遠のかれてしまうと思います。

例えば、名刺交換ひとつにしても、先輩経営者の方々のところへ入会したばかりの方が自らいくのはなかなか難しいことです。そんなときに、【青年部会】の方々が ORA の正副会長や先輩経営者のところまでアテンドする——。これだけでも本当に心強いと思います。

ぜひとも、若手経営者の方々が【青年部会】だけではなく、ORA 本会に馴染んでもらえるよう、みんなで盛り上げてもらえたら嬉しいですね。

その後、今回、河合克俊代表幹事のもと副代表幹事に就任した井上裕彬氏（株式会社ヒロフードサービス 専務取締役）、新開愛瑠沙氏（株式会社しもたや 代表取締役）、重里康太氏（重里兄弟商店株式会社 代表取締役）の3名がこれからの抱負を語った。

それを受け、東氏より、「河合代表幹事のもとに集まれた副代表幹事の方々はとてもしっかりとご自身の考えを持たれているように思いました。今後は、先輩である我々がいろいろ意見を言うのではなく、幹事会の方々の意見をサポートしていく——。これが今後の【青年部会】の活性化につながるように思います。どうか、幹事会の皆さま、頑張ってください。」と締め言葉を述べた。

最後に平野誠前代表幹事に、新代表幹事に就任した河合克俊氏から花束と記念品が贈呈され、参加者全員が拍手で平野前代表幹事の労をねぎらった。



左から 河合新青年部会代表幹事・平野前青年部会代表幹事